

循環型農業で有機栽培に
取り組む農業者
谷 清美さん

たにきよみ (大塚・60歳)



を自れ
のとそ
もだど
おいしい
がらん
っから
ったい
だわな
作りの
だけの

「たいへんだけれど何でもそう
しよ。どこかで楽しみを持ちそれが
勝てば辛さも無くなる。ここで大山
風車米を売り出そうかと思っていま
す。」

9月上旬、大きな羽根がゆっくり
回る風車の下で谷さんは大型のコン
バインで生産者のヒトメボレを刈っ
ていた。力強くレバーを握り、慣れ

た手つきで操作を繰り返す。鋭い
目が金色の稲穂を見据えている。

有機農業にこだわり、今年4月に
エコファーマー(※)の認定を受け
た。大山町では第1号となる。高校
卒業後10年間会社勤めをしたのち親
から譲り受けた農地で稲作農業を開
始。キャベツやカボチャなどの野菜
種子生産を軸とした農業経営をして

いた。

農家の高齢化などで、増える休耕
地や荒廃地に心を痛めていた谷さん
は、「農業を守り孫の代までつながつ
ていく農業の基盤を作ろう」と決意。
平成5年に認定農業者になり、その
思いを実現するために、平成16年に
鳥取県の「チャレンジプラン支援事
業」を活用して、大型機械化や設備

の充実を図り、新たな循環型農業に
挑戦した。

「土さえ良ければいいものができ
る。化学肥料を使わなければ土地は
応えてくれる。」と、土づくりを基
本とし、畜産農家と連携して稲わら
と牛糞を交換し、堆肥に使用。また、
なたねを栽培し、景観作物として癒
しの空間をつくり、種は搾油業者に

納め油に加工、残幹は堆肥にしてい
る。近くの庄内、名和、御来屋、光
徳保育所の園児が食べているごはん
も谷さんの有機米。「子どもは味の
違いをよく知っています」と自信を
持って話す。

■地大豆の原種栽培

今、谷さんは緑と白色の地大豆の
原種栽培に取り組んでいる。収穫で
きるのは約1ト。「農業がなくなる
前に種子がなくなるのを心配してい
ます。」と、国の対策に注目している。
「最初は周りの見る目が違ったが、
今は消毒も少なくしてもらったり協
力してもらっています。有機の田ん
ぼは除草剤をふつてないので草が生
え、虫もたくさんいるんです。」

谷さんは地元の環境を、「自然の
力で無理せんでも少々風があるところ
なので病気が少ない。そこに少し
手をかければいい結果が出てくる。」
と評価する。後継者については、「で
きるところまでもっていきのが親の
役目。それでいいと思います。」と
きっぱり話す。谷さんに太陽のよう
な熱いパワーがみなぎっていた。

(※)「エコファーマー」都道府県知
事が認定する「土づくり・減化学肥
料・減化学農薬」の3つの技術に一
体的に取り組む農業者。

私たちのまち (9月1日現在)

○人口： 18,816人 (-22)
男： 8,943人 (-11)
女： 9,873人 (-11)
○世帯数： 5,904世帯 (-5)

今月の税・保険料

納期限は
10月31日 (金)

町県民税 (3期分)

国民健康保険税 (3期分)

介護保険料 (普通徴収・3期分)

後期高齢者保険料 (普通徴収・3期分)

編集後記

▽広報担当になってから丸
1年。作文が苦手な自分
に示がきた時は天地がひ
っくり返るくらい驚いたも
です。▽デジタル化の波
はテレビだけでなく広報に
も押しよせ、今や当たり前
にデジタルカメラで撮影、DTP
で編集の時代です。数年前
は手書きの原稿用紙を印刷
会社に出していたのを思い
出します。8月に参加した
県の広報研修会で気持ちを
リフレッシュして取り組ん
だ10月号です。▽大山町3
チャンネルも放映からはや
1年。共に皆さんに見られ
る、読まれる情報づくりを
目指します。



大山町広報 10月号 No.51

◆発行：大山町役場
◆編集：企画情報課

鳥取県西伯郡大山町御来屋328番地

TEL 0859-54-3111

FAX 0859-54-5216

大山町ホームページ <http://www.daisen.jp/>

◆印刷：有限会社米子プリント社



この印刷物は
大豆インキを使用しています。

この広報紙は、環境に配慮した
再生紙を使用しています。